

授業科目名	日本文化 I		
学科・年次	着物工芸科 1年次	時間数	13時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	
担当	(茶道)松下園甫 (華道)松下園甫 (風呂敷)久保村正高	テキスト	なし
授業目的	日本文化の中心にある着物をより理解するために、着物の着用シーンにある日本文化について学ぶ		
授業概要	茶道や華道など着物の着用シーンにある日本文化について学び、着物を着た際に活用できる風呂敷の扱い方や贈答文化について学ぶ		
到達目標	○茶道と華道の基礎を理解する。 ○風呂敷の使い方がわかる。		
授業計画	1回 華道① 2回 華道② 3回 華道③ 4回 華道④ 5回 華道⑤ 6回 茶道① 7回 茶道② 8回 茶道③ 9回 茶道④ 10回 風呂敷		
評価方法	出席状況		

授業科目名	色彩学		
学科・年次	着物工芸科 1年次	時間数	51時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	○
担当	能口 祥子	テキスト	なし
授業目的	彩色の基礎知識(色彩検定3級レベル)を理解する。色彩と着物(和装・染・織)の関係を学ぶ。配色技法の基本と活用を学び、着物製作や着物のコーディネートに活用する。		
授業概要	彩色の基礎知識(色彩検定3級レベル)を理解するとともに、着物製作や着物のコーディネートに活用できるように、きもの独自の配色を理解しきものカラーデザインや個性に合わせた配色など演習や実習を通して学ぶ。		
到達目標	色彩の基礎知識を理解する。色彩を活用して着物の製作や着物のコーディネートに活かせる基礎を理解する。パーソナルカラーの基本がわかる。振袖や着物のカラーデザインができる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・色彩基礎</li> <li>2 色彩基礎・トーンとイメージ、光と色</li> <li>3 色彩基礎・混色実習</li> <li>4 色彩基礎・色彩心理、色の視覚効果</li> <li>5 色彩基礎・色のコラージュ</li> <li>6 色彩基礎・色彩調和、基本配色実習</li> <li>7 色彩基礎・きものカラーコーディネート、配色の基本的な技法</li> <li>8 色彩基礎・配色イメージ、イメージによる配色演習</li> <li>9 色名・日本の色の特徴</li> <li>10 イメージ変換・イメージの作り方、イメージの変換</li> <li>11 まとめ・筆記試験、きものRe style</li> <li>12 ファッション インテリア、目のしくみ・色彩検定対策テスト</li> <li>13 色彩検定対策テスト</li> <li>14 イメージの配色</li> <li>15 イメージによるきものから—コーディネート</li> <li>16 パーソナルカラー 診断と解説</li> <li>17 パーソナルカラー 4シーズン分類、コラージュ</li> <li>18 自分のイメージコラージュ</li> <li>19 振袖カラーデザイン</li> <li>20 きものカラーデザイン企画、企画の流れとコンセプト</li> <li>21 きものカラーデザイン企画</li> <li>22 きものカラーデザイン企画 Restyle</li> </ol>		
評価方法	出席状況・提出物・授業態度		

授業科目名	きもの学 I		
学科・年次	着物工芸科 1年次	時間数	27時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	蛸原 香代子・大原 敏敬	テキスト	きものの基本 きもの文化検定 公式教本 I (ハースト婦人画報社・講談社)
授業目的	きものの基礎的な知識を覚える。		
授業概要	きもの文化検定の公式教本をテキストとして使用し、きものの全般的な基礎知識を理解する。11月に開催されるきもの文化検定4級以上の合格を目指す。		
到達目標	○きもの文化検定4級以上の合格 ○きものの全般的な基礎的な用語を覚える。		
授業計画	1回 着物を着るときに必要な物 2回 着物の種類と着こなし 部分名称 3回 基本的な帯の種類・小物 4回 羽織とコート 5回 男のきもの 6回 子供のきもの 7回 着物の主な産地と特徴① 8回 着物の主な産地と特徴② 9回 着物の歴史 10回 素材と夏物 11回 ゆかた 12回 基本的なコーディネート 13回 日本の色 14回 きものの文様 15回 紋 16回 各部の名称 17回 着物の収納と手入れたたみ方 18回 美しい立ち居振る舞い 19回 通過儀礼と装い 20回 総復習 21回 きもの文化検定試験対策① 22回 きもの文化検定試験対策②		
評価方法	出席状況、授業態度 テスト きもの文化検定合格級		

授業科目名	日本の文様		
学科・年次	着物工芸科 1年次	時間数	5時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	なし
授業目的	日本の文様について基本知識を学ぶ		
授業概要	日本の文様は長い歴史の中で形作られてきているが、その歴史やいわれ、歳時記と文様の関わりを学ぶ		
到達目標	○日本の文様のなりたちやいわれを理解する。 ○歳時記と文様の関わりを理解する。		
授業計画	<p>1回 日本の文様の歴史</p> <p>2回 日本の文様のいわれ</p> <p>3回 陰陽五行と文様</p> <p>4回 歳時記と文様①</p> <p>5回 歳時記と文様②</p> <p>6回 歳時記と文様③</p>		
評価方法	出席状況		

授業科目名	きもの専門実習 和裁 I		
学科・年次	着物工芸科 1年次	時間数	169時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	
担当	蛸原 香代子	テキスト	きもの I・大裁女物単衣長着 (1)木綿仕立て(浴衣)・大裁女物無双袖裾折り返し長襦袢 (大原和服専門学園)
授業目的	着物の構造がわかるようになる。		
授業概要	着物の染織をする上で必要な着物の構造が和裁を通してわかるようになる。		
到達目標	○運針ができるようになる。○浴衣を縫うことができる。		
授業計画	<p>1回 運針練習(並縫い・三つ折りくけ・本ぐけ)</p> <p>2-3回 懸張器袋製作 コテの使い方</p> <p>4-22回 女物浴衣製作</p> <p>23-38回 男物浴衣製作</p> <p>39回 学科試験</p> <p>40回 復習</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物・学科試験		

授業科目名	着装 I		
学科・年次	着物工芸科・1年次	時間数	25時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	着物の着方と帯結びができるようになり、基本的着付けができるようになる		
授業概要	前期は浴衣の着付けを学び、自装、他装、男性浴衣の着付けまで行う。後期は自装で、普段着の着物の着方と名古屋帯の結び方を学び、試験を行う。その後、自装で準礼装の着付けと袋帯の二重太鼓まで行う。また2年生への導入として、他装で普段着の着付けを学ぶ。		
到達目標	基本的な着付けを学び、自装できるようになる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 浴衣の着方・半幅帯の結び方</li> <li>2 浴衣の着方・半幅帯の結び方</li> <li>3 浴衣の着方・男性浴衣の着せ方</li> <li>4 浴衣の着方・他装</li> <li>5 浴衣の着方・他装</li> <li>6 長襦袢と普段着着物の着方</li> <li>7 着物の着方と名古屋帯の結び方</li> <li>8 着物の着方と名古屋帯の結び方</li> <li>9 喪服の着方</li> <li>10 普段着着物と着方と名古屋帯の結び方・テスト前練習</li> <li>11 実技テスト</li> <li>12 まとめ</li> <li>13 伊達衿の使い方と袋帯の二重太鼓</li> <li>14 長襦袢、着物の着せ方(他装)</li> <li>15 普段着着物の着せ方と名古屋帯(他装)</li> </ol>		
評価方法	出席状況・実技試験・授業態度		

授業科目名	染織工芸実習・染色実習 染色理論・実習 I		
学科・年次	着物工芸科・1年次	時間数	453時間
授業方法	実習	実務教員科目	
担当	荒木 倫浩	テキスト	なし
授業目的	染色の基礎・基本を実習を通して理解し身につける。染色の基本的な種類の染色手順を理解し制作することができる。		
授業概要	ロウケツ染で浴衣を染めることで基本的な防染と染色を理解する。ロウケツ染、絞り染、型染めなどの着物に使われる基本的な染色技法を実習を通して染められるようになり、進級課題の付下げ木綿着物を染色することで絵羽の着物の作り方の基本を理解する。		
到達目標	きものの染色の基礎・基本を身につける。 ○ロウケツ染・絞り染・型染めができるようになる。 ○色の合わせ方ができるようになる。 ○絵羽付けが理解できるようになる。 ○反復練習を通して技術を身に付けるための学習姿勢を身に付ける。		
授業計画	33時間 染色基礎 ろうけつ染め 78時間 浴衣制作 82時間 手ぬぐい制作 6時間 藍染 86時間 男子浴衣制作 80時間 正倉院文様をモチーフにした小物2種類制作 20時間 帯揚げ制作 68時間 付下げ木綿着物制作		
評価方法	出席状況・授業態度・提出課題		

授業科目名	染織工芸実習・染色実習 友禅実習		
学科・年次	着物工芸科・1年次	時間数	80時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	友禅染の基礎動作・糸目糊置きの作業ができるようになる。		
授業概要	友禅染の基礎動作・糸目糊置きを実習を通してできるようになるため、道具の扱い方、ゴムの扱い方、道具の手入れの仕方、基礎動作を端切れ等で御所解文様等の下絵を活用し練習をする。		
到達目標	友禅染の基礎・基本を身につける。 ○基礎動作が身につき、糸目糊置きができるようになる。 ○反復練習を通して技術を身に付けるための学習姿勢を身に付ける。		
授業計画	<p>9時間 糸目糊置き基礎動作練習</p> <p>71時間 端切れを用いた実践練習</p> <p>青花→糸目糊置き→もち伏せ→引き染め→彩色を2回行う。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物		



授業科目名	織物実習 織物理論・実習 I		
学科・年次	着物工芸科・1年次	時間数	418時間
授業方法	講義・実習	実務教員科目	○
担当	構 美智江	テキスト	手織りの実技工房(染織と生活社)
授業目的	織物の基本を理解する。一人で染色、整経、織ができるようになる。		
授業概要	織りの基本を理解し実習できるように卓上機を使い課題製作を行う。高機に移行し組織設計・糸染めから織り上げまで一連の流れで帯揚げ・半幅帯の製作を行う。		
到達目標	糸量計算・組織図理解ができるようになる。組織設計・糸染めから織り上げまで一連の流れで実習ができるようになる。		
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2-6 ランチョンマット製作</p> <p>7-13 ショール製作</p> <p>14-16 ブックカバー製作</p> <p>17-19 巾着袋製作</p> <p>20-37 帯揚げ製作</p> <p>38-40 織指導実習</p> <p>41-66 半幅帯製作</p>		
評価方法	出席状況・提出物・試験・授業態度		

授業科目名	染織工芸実習 デッサン		
学科・年次	着物工芸科・1年次	時間数	28時間
授業方法	実習	実務教員科目	
担当	荒木 倫浩	テキスト	なし
授業目的	形をとらえ描くことができるようにデッサンの基礎を身に付ける。		
授業概要	形をとらえて描くことができるように、授業開始1時間は静物を描く練習をおこない、その後はテーマによるデッサンをおこなう。最終の校外学習で大和郡山の郡山金魚資料館で動く金魚のデッサンを行い、事前に調べ金魚を理解するとともに動く動物を描く観察力を養う。		
到達目標	形をとらえ描くことができるようになる。		
授業計画	<p>5時間 形を描く練習。白いモチーフで陰影を観察し描く</p> <p>5時間 直線で構成された単純なモチーフを描く。バランスをに配慮して描く。</p> <p>5時間 布・植物など不定形な柔らかいモチーフを描く。質感に配慮して描く。</p> <p>5時間 構成された配置の複合モチーフを描く。物の形と配置の関係を観察する。</p> <p>3時間 人物を描く。</p> <p>5時間 大和郡山金魚資料館で動く金魚を描く。</p>		
評価方法	出席状況・提出物		

授業科目名	染織工芸実習 きものデザイン・文様の描き方		
学科・年次	着物工芸科・1年次	時間数	43時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	なし
授業目的	和の文様の基礎的な描き方を学ぶ		
授業概要	牡丹・菊などの和の代表的な文様の描き方を実習を通して学ぶ		
到達目標	和の文様の特徴的な描き方・ぼかしを中心に複層花卉の立体表現を描くことができる。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション</p> <p>2回 友禅図案について</p> <p>3-8回 牡丹・菊 描写・彩色実習</p>		
評価方法	出席状況・提出物・レポート		

授業科目名	染織工芸実習 きものデザイン・基礎実習		
学科・年次	着物工芸科・1年次	時間数	43時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	なし
授業目的	面相筆の扱い方や描き方を身に付けるため、運筆模写実習をおこなう。		
授業概要	明治の画家の花鳥画の下絵を運筆模写実習をおこない、面相筆の扱い方や描き方を練習をする。		
到達目標	面相筆で、原画を正確に写すことができる。太細や柔らかさを1つの筆で描き分けることができる。		
授業計画	<p>1回 墨の扱い方・筆の扱い方</p> <p>2-9回 運筆模写実習</p>		
評価方法	出席状況・提出物		

授業科目名	染織工芸実習 きものデザイン・作品製作実習 I		
学科・年次	着物工芸科・1年次	時間数	101時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	なし
授業目的	和の文様の基礎的な描き方を学ぶ。		
授業概要	松竹梅などの和の文様の基礎的な描き方を実習を通して学ぶ		
到達目標	<p>原画の輪郭を正しく写すことができる。彩色の基本とぼかしの基礎ができるようになる。</p> <p>○和の文様の大きな特徴であるぼかしを中心に隈取筆の使い方の習得</p> <p>○絵の具の作り方と扱い方ができる。</p> <p>○道具の使い方ができる。</p>		
授業計画	<p>1-4回 松6種描写</p> <p>5-10回 梅6種描写</p> <p>11-14回 竹と鶴描写</p> <p>15-19回 牡丹描写</p> <p>20-25回 進級製作「和花」自由作品</p>		
評価方法	出席状況・提出物・レポート		

授業科目名	グラフィックツール実習 I		
学科・年次	着物工芸科・1年次	時間数	110時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	新子絵里加	テキスト	なし
授業目的	illustrator・Photoshopで図案の描き方や配色方法を学び、グラフィックツールを使った図案作成の基礎的能力を身につける。		
授業概要	Macを使用して、illustrator・Photoshop等グラフィックツールを使い、伝統的な文様の描き方や配色方法を段階的に学び、グラフィックツールを使った帯や着物の図案作成を行う。また、制作した図案がどのように染色されるかを着物メーカーに見学に行き学習する。		
到達目標	グラフィックツール実習【基礎 I】の科目では、伝統的な文様をIllustratorで描き、Photoshopで配色バリエーションを考察することで、着物のテキスタイルデザインの仕事及び表現について体系的な概念とスキルを身につける。 そして、着物づくりにおいて、アナログとデジタルの協働の重要性を理解できるようになることを目標にしている。		
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 PCに慣れる</p> <p>3-5 Illustrator基礎(縞・格子・幾何学模様を描く)</p> <p>6-11 古典文様に学ぶ・帯図案として</p> <p>12 校外学習</p> <p>13 校外学習</p> <p>14-15 PCに慣れる</p> <p>16-17 着物(小紋)を描く(幾何学文様)</p> <p>18-22 着物(小紋)を描く(古典文様の飛柄)</p> <p>23 校外学習</p> <p>24 PCに慣れる(レポート作成)</p> <p>25 まとめ</p>		
評価方法	出席状況・提出物		

授業科目名	校外学習 I		
学科・年次	着物工芸科 1年次	時間数	13時間
授業方法	校外学習	実務教員科目	
担当	各担任	テキスト	なし
授業目的	古都奈良・京都で五感を通して日本文化や着物についてフィールドワークで学ぶ		
授業概要	古都奈良・京都は古い木造建物も多く、着物を着る観光者も増えているため、着物ユーザー目線を養うとともに着付けの練習機会として着物を着る機会として活用し、日本文化や着物に関する施設等を訪問し、学園で学んでいる着物を多面的にとらえられるように校外学習を実施する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○着物を着て外出できる。(前期は浴衣・後期は着物)</li> <li>○着物をつくることと着物を着ることのつながりを考えられるようになる。</li> <li>○日本文化や着物に関することを学ぶ</li> </ul>		
授業計画	<p>1回 自分で染めた・縫った浴衣を着て祇園祭に行く</p> <p>2回 着物を着て正倉院展に行く</p>		
評価方法	出席状況・提出物		

授業科目名	キャリア学習		
学科・年次	着物工芸科・2年次	時間数	5時間
授業方法	講義	実務教員科目	
担当	大原敏敬	テキスト	-
授業目的	最終学年の進路活動スケジュールを知り、会社の仕組みや着物業界・ブライダル業界・法衣装束業界・舞台衣裳業界の仕事について知り、自分の適性に合わせた進路を考えられ行動できるようになる。		
授業概要	段階的に自分の適性に合った進路を考えられるようになるため○最終学年の進路活動及びスケジュール○学園の就職活動にかかわる手続き○着物業界・ブライダル業界・法衣装束業界・舞台衣裳業界の仕事理解○会社の仕組み○会社の調べ方○自己分析の方法など講義を通して理解できるようにする。		
到達目標	○自分の適性に合った進路先を調べ考えられるようになる。		
授業計画	<p>1回 昨年の進路状況と就職活動と自己分析について</p> <p>2回 業界・会社の仕組みを知る。会社情報の収集方法を知る。</p> <p>3回 学校での就職のすすめ方について</p>		
評価方法	出席状況		



授業科目名	きもの学Ⅱ		
学科・年次	着物工芸科 2年次	時間数	14時間
授業方法	講義	実務教員科目	
担当	大原 敏敬	テキスト	きもの基本 きもの文化検定 公式教本Ⅰ・きものたのしみ きもの文化検定公式教本Ⅱ (ハースト婦人画報社・講談社)
授業目的	和服地の各産地の風土や歴史と特徴を自ら調べられるようになり、伝統的な工芸染織品の知識と価値を伝えられるようになる。		
授業概要	きもの文化検定の公式教本をテキストとして使用し、全国各地にある和服地の特徴と価値を理解し、グループに分かれて全国の和服地から1つを選びプレゼンテーションをおこなう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国の和服地の特徴と価値を理解する。</li> <li>○和服地の価格と作り方の関係を理解する。</li> <li>○和服地の魅力を伝えることができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>1回 全国の和服地について①</p> <p>2回 全国の和服地について②</p> <p>3回 全国の和服地について③</p> <p>4回 和服地特別講義①</p> <p>5回 和服地特別講義②</p> <p>6回 和服地特別講義③</p> <p>7回 プレゼンテーション準備</p> <p>8回 プレゼンテーション準備・発表</p>		
評価方法	出席状況、提出物、プレゼンテーション		

授業科目名	きものの流通		
学科・年次	着物工芸科 2年次	時間数	4時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	石崎 功	テキスト	なし
授業目的	きものの流通について学ぶ		
授業概要	きものの流通の各段階(川上・川中・川下)の役割を理解するとともに、これからの流通の変化にモノづくりに求められることを理解する。		
到達目標	○着物の流通の各段階(川上・川中・川下)の役割がわかる。 ○これからの流通の変化についてわかる。		
授業計画	1回 きものの流通の役割について 2回 きものの流通の変化とこれからモノづくり求められること		
評価方法	出席状況		

授業科目名	きものの管理		
学科・年次	着物工芸科 2年次	時間数	4時間
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	大原 健嗣	テキスト	なし
授業目的	きものの手入れと保存、染み抜きなどきものメンテナンスについて学ぶ		
授業概要	きもの染色補正のプロより講義と実演できものの手入れと保存、染み抜きなどきものメンテナンスについて学ぶ		
到達目標	○きもの手入れと保存についてわかる。 ○汚れの種類によるしみ抜きの方法がわかる。		
授業計画	1回 きもの手入れと保管の仕方について 2回 きものしみ抜きについて		
評価方法	出席状況		

授業科目名	時代テーマ		
学科・年次	着物工芸科 2年次	時間数	8時間
授業方法	講義	実務教員科目	
担当	大原 敏敬	テキスト	なし
授業目的	きものが大きく変化した時代や華やいだ時代にテーマを置き、時代背景ときものの関わりを理解する。		
授業概要	平安時代の十二単など装束、安土桃山時代から江戸時代にかけての小袖、明治、大正、昭和時代の近代服飾の3つのテーマを専門家から講義をうける。		
到達目標	○時代背景ときものの関わりを理解する。 ○各時代の着物の特徴を理解する。		
授業計画	<p>1回 平安時代・平安装束 十二単と束帯 皇族や貴族の衣服について</p> <p>2回 明治・大正・昭和 近代服飾 振袖の変化と銘仙お召等おしゃれな着物</p> <p>3回 安土桃山から江戸時代の小袖の変遷</p>		
評価方法	出席状況、提出物		

授業科目名	きもの専門実習 和裁Ⅱ		
学科・年次	着物工芸科 2年次	時間数	254時間
授業方法	講義・演習	実務教員科目	
担当	蛸原 香代子	テキスト	きものⅠ・大裁女物単衣長着 (1)木綿仕立て(浴衣)・大裁女物無双袖裾折り返し長襦袢 (大原和服専門学園)
授業目的	きものの染織に必要な下絵羽・絵羽着物の縫い方ができるようになり、着物の構造がわかるようになる。絹の特性を知る。		
授業概要	きものの染織に必要な下絵羽・絵羽着物の縫い方ができるようになり、着物の染織をする上で必要な着物・帯の構造が和裁を通してわかるようになる。実習を通して絹の特性を知る。		
到達目標	○下絵羽・絵羽着物の縫い方ができる。○運針ができる。○長襦袢を縫うことができる。○名古屋帯を縫うことができる。○綿附下を縫うことができる。○絹の特性がわかる。		
授業計画	1-3回 下絵羽 4-17回 綿附下製作 18-28回 袖無双長襦袢製作 29-31回 和裁技術検定初級試験対策 21-34回 半幅帯製作 35-39回 名古屋帯製作 40-41回 復習		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物・和裁技術検定初級		

授業科目名	着装Ⅱ		
年次	着物工芸科・2年次	時間数	20時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	着物の他装ができるようになり、様々な帯結びができるようになる。		
授業概要	前期は1年時の復習から始まり、普段着から準礼装までの他装を学ぶ。後期は、帯結びに重点を置いて様々な変わり結びを学ぶ。 また、3年生への導入として女袴の着せ方や、国家検定についても触れる。		
到達目標	自装に加えて、基本的な他装ができるようになる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自装の復習・他装の復習</li> <li>2 体型別補正と長襦袢、着物の着せ方</li> <li>3 着物の着せ方と袋帯の二重太鼓</li> <li>4 着物の着せ方とお文庫結び</li> <li>5 男性浴衣の着せ方(復習)</li> <li>6 浴衣の着せ方(復習)</li> <li>7 2・3・4年生合同 浴衣の着せ方</li> <li>8 着物の着せ方とふくら雀</li> <li>9 着物の結び方と立矢結び</li> <li>10 着物の着せ方と変わり結び① 伊達衿の使い方</li> <li>11 神社へ行くための着替え(他装)</li> <li>12 着物の着せ方と変わり結び② 伊達衿の使い方</li> <li>13 着物の着せ方と二重太鼓(復習)</li> <li>14 テスト前練習</li> <li>15 テスト</li> <li>16 国家技能検定着付け技能士2級受験に向けて</li> <li>17 女袴の着付け①②</li> </ol>		
評価方法	出席状況・実技試験・授業態度		

授業科目名	染織工芸実習・技術実習(染色・織物選択)		
学科・年次	着物工芸科 2年次	時間数	906時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	構 美智江・黒田 有香	テキスト	なし
授業目的	染色か織物を選択し、1年次までに学んだ技法をつかい、着物や帯の基本的な製作ができるようになり、実践的な課題実習で染織技術を高める。		
授業概要	染色か織物を選択し、1年次までに学んだ技法を使い、着物・帯などの制作課題と自由課題をおこない、専門性と実践力をたかめる実習授業を行う。		
到達目標	<p>着物や帯の実践的な染色・織物作品をつくれるようになる。</p> <p>○着物と帯がつくれるようになる。</p> <p>○自由課題を設定し、工程をふまえて計画をたて実習することができる。</p>		
授業計画	<p>(染色選択)</p> <p>21時間 金彩練習</p> <p>250時間 振袖もしくは訪問着の課題製作</p> <p>100時間 名古屋帯の課題製作</p> <p>168時間 附下の課題製作</p> <p>67時間 自由課題製作</p> <p>300時間 卒業製作</p> <p>(織物選択)</p> <p>150時間 名古屋帯制作</p> <p>300時間 着尺制作</p> <p>456時間 自由課題・卒業製作</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・提出課題		

授業科目名	企業臨地実習		
学科・年次	着物工芸科・2年次	時間数	68時間
授業方法	実習	実務教員科目	
担当	大原敏敬	テキスト	なし
授業目的	学んできた染織技術の社会での活用について経験するため、企業で実践的な職場体験をおこなう。		
授業概要	企業との定めた受け入れ期間に、企業での実践的な職場体験を行う。		
到達目標	学んできた染織技術の社会での活用について理解する。社会で求められる職業人としてのスキルを理解する。		
授業計画	68時間 企業臨地実習		
評価方法	出席状況・提出課題・取り組み姿勢		



授業科目名	染織工芸実習 きものデザイン・作品製作実習Ⅱ		
学科・年次	着物工芸科・2年次	時間数	169時間
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大内 惣介	テキスト	なし
授業目的	きものの文様のそれぞれの謂れを学び、文様の描き方の基礎を身につける。文様の組み合わせによる複合柄が描けるようになる。		
授業概要	和の文様の組み合わせ方を工夫するとともに、和文様の描き方を訓練する。コンペやコンテストの課題製作もおこなう。		
到達目標	和文様を組み合わせ、「複合和文様」を描くことができる。		
授業計画	<p>1-5回 Tシャツコンペ作品製作</p> <p>6-8回 構成牡丹画</p> <p>9-11回 板付牡丹画</p> <p>12-14回 乱菊画</p> <p>15-20回 菊づくし</p> <p>21-24回 撫子</p> <p>25-28回 女郎花</p> <p>29-32回 桔梗</p> <p>33-36回 小菊構成</p> <p>37-43回 進級製作「複合和文様」自由作品</p>		
評価方法	出席状況・提出物		

授業科目名	グラフィックツール実習Ⅱ		
学科・年次	着物工芸科・2年次	時間数	113時間
授業方法	講義・実習	実務教員科目	○
担当	山崎正人	テキスト	なし
授業目的	Illustrator・Photoshopで図案の描き方や配色方法を学び、グラフィックツールを使ったデザイン、図案作成の基礎的能力を身につける。		
授業概要	Macを使用して、illustrator・Photoshop等グラフィックツールを使い、伝統的な文様の描き方や配色方法を段階的に学び、グラフィックツールを使った帯や着物の図案作成を行う。また、制作した図案をインクジェットプリンターで印刷し一連のデジタル染色の流れを体験する。		
到達目標	グラフィックツール実習【基礎Ⅱ・応用Ⅰ】の科目では、伝統的な文様をIllustratorで描き、Photoshopで配色バリエーションを考察することで、着物のテキスタイルデザインの仕事及び表現について体系的な概念とスキルを身につける。そして、着物づくりにおいて、アナログとデジタルの協働の重要性を理解し、求められるデザインを考えられるようになることを目標にしている。		
授業計画	1 オリエンテーション 2-4 Illustrator(手描き図案をトレース) 5-7 Photoshop(トレース図案着色／描画) 8-11 インクジェット(着尺)図案制作 12-13 インクジェット(着尺)プレゼン制作 14-18 吉祥カレンダー制作 19-20 オリジナル家紋制作		
評価方法	出席状況・提出物		

授業科目名	校外学習Ⅱ		
学科・年次	着物工芸科 2年次	時間数	13時間
授業方法	校外学習	実務教員科目	
担当	各担任	テキスト	なし
授業目的	古都奈良・京都で五感を通して日本文化や着物についてフィールドワークで学ぶ		
授業概要	古都奈良・京都は古い木造建物も多く、着物を着る観光者も増えているため、着物ユーザー目線を養うとともに着付けの練習機会として着物を着る機会として活用し、日本文化や着物に関する施設等を訪問し、学園で学んでいる着物を多面的にとらえられるように校外学習を実施する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○着物を着て外出できる。</li> <li>○着物をつくることと着物を着ることのつながりを考えられるようになる。</li> <li>○日本文化や着物に関することを学ぶ</li> </ul>		
授業計画	<p>1回 文楽鑑賞</p> <p>2回 着物を着て正倉院展に行く</p>		
評価方法	出席状況・提出物		